

GO UP みやぎ ～金華山震災復興支援～宝島プロジェクト

【団体の活動目的】

広く一般に対して、スポーツの振興、発展を図る事業や地域活性化、環境保全を図る事業を行い、スポーツをする環境や体験する機会を創出し、スポーツ及び地域活動の発展、及び経済活動の活性化に寄与することを目的とする。

2011年3月11日東日本大震災からの復興が進まぬ現状を改善しようと仙台のクライマーが中心となって2013年2月に任意団体を設立。

同年8月にNPO法人となる。金華山、牡鹿半島の震災復興の為、金華山におけるクライミングによる新しい観光資源を提言し、ボルダリングエリア公開準備、災害復旧のボランティア作業、観光資源や減災も視野に入れた豊かな森づくりを目標とする。

スポーツでみやぎを元気に！

ふるさとの発展の為、郷土への誇りを持って地域活性化の為の活動とスポーツ振興活動の融合を図る。

【宝島プロジェクト活動概要】

「金華山の復興なくして牡鹿半島の復興はない」と言わしめる、石巻圏域、宮城県の重要な観光拠点である金華山。

復旧もままならぬ現在から、復興、そして次世代へ。復興の先導モデルとして、観光、経済活性化、環境保全と総合的に震災復興をプロデュースして行く基盤作り。

1,観光振興・経済活動活性化

ボルダリングエリアの開発、情報発信。

石巻市などみやぎの企業と共同でオリジナルTシャツやチョークバック(クライミング用品)制作販売。

2, 震災風化の防止

金華山の災害復旧等のボランティア活動やその情報発信。

3, 金華山の環境保全

松枯れの現状の報告。自然保護の啓蒙活動。植樹活動への発展する活動。

・新たな観光振興を目指したボルダリングエリアの公開は地元の理解、協力を得られた今、2014年春の本公開に向けてすでに準備段階に入っている。

・石巻市の企業とのチョークバック製作と新たな雇用創出について現在打合せ中である。

・2013年10月、活動が認められ金華山が日本山岳遺産基金の日本山岳遺産として県内で初めて認定。

- ・パタゴニア日本支社からの支援でいただいた T シャツ300 枚の売上を活動資金として活用していく。
- ・2013 年 10 月 25 日復興庁が発表した「新しい東北」 官民連携推進協議会への参加資格が当会にも与えられたので、被災地における行政機関、 企業、大学、NPO等の連携し復興に向けた様々な取組の体制作り一員として活動を発展させたい。

【宝島プロジェクト 今後の計画】

- ・ボルダリングエリア公開。新たな観光資源の情報発信。
- ・金華山登山やボルダリングと自然を愛する人たちにこの活動が継承されていく為、登山道整備、山岳環境保全。
次世代育成活動として登山体験会、クライミング体験会の実施。
- ・定期船の完全復活にも寄与できるよう、金華山、牡鹿半島への人の流れを絶やさぬよう活動を継続していく。
- ・観光資源としての金華山の自然環境を守るため、引き続き松枯れの被害状況の報告、 減災をも視野入れた植樹活動を目指し、200年かけた豊かな森づくりに地域とともに取り組みたい。

【宝島プロジェクト 具体的な成果目標】

- ・金華山は周囲26kmの島そのものが山となっており、標高445mの山頂からは太平洋 が望める。島の中心部では原生林で覆われブナの巨木などが見られる。沿岸部は花崗岩の 白と海の青のコントラストが美しいボルダリングエリアを有している。 この類稀な自然環境を守って行く活動。
- ・宝島プロジェクトによるボルダリングエリア公開、その維持。
- ・金華山の日本山岳遺産認定に伴い、登山客やトレランなど若者をターゲットのしたアウトドアスポーツの観光振興を図る。
- ・金華山、宝島プロジェクトの関連商品を地元企業と共同開発し、石巻市、女川町の仮設住宅の方々の雇用創出につなげる。
- ・観光資源となる豊かな森づくりの継続~。地元小学生の登山教室や植樹なども定期的で開催し次世代育成を図る。
- ・聖武天皇の時代から神域でもある金華山の歴史や、神の使いとされるニホンジカや海藻を食べる珍しい特性を持ったニホンザルが生息する生態系を学習できるシンポジウムなどの企画。

【宝島プロジェクト、金華山支援の課題】

- ・現在島の港と反対側で拡大している松枯れの現状を知るために荒廃している登山道整備は その調査の為に必要である。
登山道整備は自然保護の見地からミニマムインパクトにつながり、延いては森の再生の活動へと発展していく。

震災前に行われていたマツクイムシに抵抗性を持つ松の植樹、または、是非金華山においても検討していききたい減災も視野にいたる潜在自然植生の可能性の調査等ためにも登山道整備は喫緊の課題である。

・宝島プロジェクトの活動において、仙台市から石巻市までの車での移動の他に、チャーター船1人あたり3000円~8000円の船代の個人負担が大きく、継続的なボランティア活動の依頼が憚られる状態である。復旧ボランティア作業や登山道整備には、まだまだ渡島が必要である。そのため会としては船代を補助してでも人員を確保したい。資金面で活動が制約されてしまっている現状を打破しなければならない。

【金華山における国有地の登山道整備】

金華山は金華山黄金山神社の私有地以外は国定公園内の国有地となる。

そのため現在は登山道整備や草刈り、そして震災や台風の災害復旧作業も認められていない。

【赤岩青巖峡における国有林の利用】

北海道占冠村が国有地を借受し、NPO法人が管理業務を委託されている例がある。

【金華山における国有林の利用申請】

林野庁（宮城北部森林管理署）に問い合わせたところ、上記【赤岩青巖峡における国有林の利用】のシステムであれば国有地の整備等が当会でも可能とのこと。

石巻市役所で担当部署を聞き、牡鹿総合支所地域振興課にその旨を相談したが現在まで返答なし。牡鹿総合支所地域振興課より、窓口は環境省（東北地方環境事務所環境対策課）と教えてもらい、同課を訪ねてみたが国立公園になっていないためまだ担当窓口には該当しないとの説明。

当会が借用すると1億6000万円ほど費用がかかる（概算）

石巻市が借受けをした場合にはその費用がかからないと林野庁に説明受けたことも担当者には伝えた。

仮に管理委託された場合、当会は重機など持っていないが、地元のボランティア団体が道整備必要性を共感し重機での整備をしたいとのこと。

重機を運ぶ船代捻出はいまだ未解決。

【金華山の今後の展望】

震災後も松枯れの被害拡大、登山道の荒廃は進んでいるのである。

ボルダリングで観光振興をすすめるため、島内に入った我々が知ってしまったこの現状を多くの人に知ってもらい、何かしらの対策案を実践していきたい。

2004年頃から金華山でボルダリングを楽しんできた我々がこの地に恩返しするため、またアウトドアでスポーツを楽しむ我々が心から楽しめる美しいフィールドを守るため、自然環境を学び、公共の財産を守る活動として継続していきたい。